

凡 例

一、「上演年表」は、令和元年十月歌舞伎公演の上演に際して刊行された「上演資料集」に掲載されたものです。

一、「上演年表」は、文化元年（一八〇四）七月より現在に至るまでの「天竺徳兵衛」の上演年表です。

一、「上演年表」中、番付及び筋書によって確認できたものは左記の記号を欄外上部に記し、それ以外のもは典拠とした資料を備考欄に明記しました。

◎役割番付（紋番付） ○辻番付 △絵本番付・絵づくし □筋書

一、劇場名には東京を除き、その所在地を付記しました。

一、場割、役名は簡単な形で記しました。

一、出典の破損等により確認できない部分については、文字単位を□で表しました。

一、俳優の名前は所演時のものであり、（）内の数字は代数を示します。また、前名、後名を「Ⅱ」を用いて記しました。

「天竺徳兵衛韓噺」上演年表

西曆 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
一八〇四 文化1	7 (3)	河原崎座	天竺徳兵衛韓噺 第一豊後浜の市の場・第二宗観屋舗の場・第三大日丸掃国の場・第四曾根浜辺の場・第五迷ひ子の場・第六徳兵衛隠家の場・第七滝川館の場・第八本領安堵の場	⑨操時代世話／歌舞妓増補 滝川左京正勝（市川門蔵）、吉岡宗観実は朝鮮の臣下木曾官・曾根の汐焼弥太八（藤川叶助）、北条時五郎氏連・曾根の汐焼五太八（坂東善次Ⅱ一猿）、大友佐賀次郎義延（嵐雛蔵）、丑尾田伴六・庄屋沖右衛門（尾上小の蔵）、講坊主西念（中村のう蔵）、川上運平（中島磯十郎）、坂戸官蔵・やつこたで平（坂東三喜蔵）、徳兵衛娘おしほ（坂田富吉）、大友家の公達月若丸（岩井岩太郎）、滝川左京妹折枝姫（岩井亀二郎、宗観妻夕波・桂源吾国次（坂田佐十郎）、大友家奴磯平（③市川雷蔵）、折枝姫めのと袖垣・徳兵衛女房お綱（中山常次郎）、足軽猿田彦左衛門・船頭作太夫（坂東彦左衛門）、柳が浦のあまもしほ（小佐川七蔵Ⅱ③常世）、高砂の船頭徳兵衛実は尾形十郎重清・此村大炊之助俊春・真柴久次（岩井喜代太郎Ⅱ④市川八百蔵）、月若丸めめといほはた・田舎座頭徳都・播州の船頭徳兵衛実は大日丸（尾上松助Ⅱ①松緑） ※9月13日まで。Ⅱ『歌舞伎年表』

「天竺徳兵衛韓噺」（上演年表）

「天竺徳兵衛韓噺」(上演年表)

西暦 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
一八〇六 文化3	6 (21)	市 村 座	波枕 韓 閨書 絵入七冊 第一 松浦明神にて藝仙術の事・第二 備中玉嶋にて恋雨舎の事・第三 曽根浜にて逢女怪霊事・第三 播州高砂にて奇談噺の事・第五 斯波屋敷にて木琴打事・第六 大坂高麗橋にて夏祭囃子事・第七 天満大川にて鯉不審の事	児島左近之助・当麻五郎大江の為光・奴鳴平・町が、へ琴浦の金(市川團十郎) (5)海老蔵(大鳥佐賀右衛門・家主三河屋義平次(尾上登蔵)、月若丸(瀬川男勝)、天竺徳兵衛女ぼうおたつ・蔵人妹うら波(中山常次郎)、吉岡宗観実は木曾官・汐浜の波蔵・紺屋伝八(市川宗三郎) (1)成田屋宗兵衛)、宗観娘おふさ(中村春之助)、斯波采女之助・一寸徳兵衛母おかし・道具や清七後に助松主斗(4)花井才三郎、釣舟おさん・一寸徳兵衛妹お中(山下万作)、玉島磯之丞後に一寸徳兵衛・六角兵庫之助・昼蔭宿なし団七・大内之助義隆(尾上栄三郎) (1)大川橋蔵)、田舎座頭徳都・りょうびんがま仙人実は尼子三郎・月若丸めのと五百機・大仏坊主三ぶ・畠山左衛門左保・播州舟頭天竺徳兵衛実は宗観一子大日丸(尾上松助) (1)松緑)。
一八〇八 文化5	閏6 (8)	市 村 座	彩入 御伽 艸 第一 番目二日替りに奉入御覧侯 発端 播磨国法華山の場・二幕目 高砂の浦の場・初日 三幕目 宇治郡蛸ヶ沼の場・初日 四幕目 山城国木幡の里の場・後日 三幕目 界川辻堂の場・後日 三幕目 播州皿屋舗の場・五幕目 宿河原の場・六幕目 室明神陣所の場	※9月3日まで。『歌舞伎年表』 細川多門之助政元・廻国の修行者廻全実は牟礼の一角照光(市川團十郎) (5)海老蔵)、船頭桑名屋徳蔵実は大友宗鑑・馬士多九郎(市川宗三郎) (1)成田屋宗兵衛)、菊地の公達月若丸(松本勘蔵)、月若丸めのと敷浪・賤の女おたね(岩井亀次郎)、下女小よし・政元妹滝野(中山岩次郎)、後平次妹おまき(桐嶋義右衛門)、五大作刑部律師実は土子泥之助・浅山藤内景信(松本小治郎)、大友三郎義長・やつこ三木平実は別所小三郎(4)花井才三郎)、菊地の息女おさかべ姫・こし元おりく(3)市川団之助)、弥陀次郎時綱・舟越三平・盗賊おさかべ太郎実は赤松次郎(尾上栄三郎) (1)大川橋蔵)、山城の国木幡後平次・後平次女ぼうおとわ実は鉄山妹浅香・浅山将監鉄山・三平姉幸崎・十六らかんの其一なかさいな尊者・船頭天竺徳兵衛実は大友の大日丸(尾上松助) (1)松緑)。

一八〇九 文化 6	6 (11) ~	森田座	阿国御前化粧七幕統 おくにござんけしやうのずがたみ 鏡	⑨天竺徳兵衛新造鉦／東山殿戲場楽 天竺徳兵衛実は大日丸・座頭徳都実は岩倉の夜叉丸・土佐の又平・不破伴左衛門・木津川の与右衛門・かさね井筒の累・名古屋山三(尾上栄三郎) (1)大川橋蔵、山三下部鹿蔵(坂東寅助) (11)森田勘弥、駿河の前司久国・かさね母妙りん(松本小治郎)、こし元なつくさ・藤六いもおかね・阿国ござんの侍女なでしこ(岩井龜次郎、世つぎ瀬平・門ばん彦左衛門・見世物師藤六(坂東彦左衛門)、こし元春の実はいてうの前・与右衛門妹おみや(岩井梅蔵)、犬上団八・馬土駄荷蔵・石山伊平太(坂東善次)一簾、小栗宗丹・羽生屋助四郎(市川宗三郎) (1)成田屋宗兵衛、狩野四郎次郎・矢橋良助(4)花井才三郎、田舎娘お玉実(勝元妻遠山・名古屋山三妻かつらぎ・額風呂の小さな(小佐川七蔵) (3)常世)、十六らかんの一体なかさいな尊者実(竹枝外道・土佐の将けん光信・木津川の渡し守浮世又平・南禅寺の安置美髯公関羽の像・佐々木の後室阿国ござん(尾上松助) (1)松緑、名古屋小山三・かなやの金五郎・足利義政公(9)森田勘弥。	
◎	一八二二 文化 9	6 (14) ~ (7)	甲府 龜屋座 市川新蔵 名代 龜屋与兵衛	天竺徳兵衛韓嘶 右五幕中入前仕中入後世話 狂言何れも水中早替り大切 鯉の水仕合迄残らず仕奉入 御覧候	天竺徳兵衛・四郎次郎元のぶ・座頭徳市・ふ破伴左衛門・井づつやかさね・木津川与右衛門・土佐の又平(尾上松助) (1)大川橋蔵、やつこ岡平・細川政もと・渡部みんぶ早友(尾上紋三郎) (3)荻野伊三郎、よし岡宗かん・羽生や助四郎・渡し守与右衛門(大谷門助、茨木門兵衛・足かる権平・長井長助(市川鷺蔵、庄や沖右衛門・びくに妙りん(尾上小の蔵)、世継瀬平・見せ物し藤六(市川の助)、奴磯平・手代源兵衛・門弟丹六(尾上けい蔵)、山名時五郎氏つら・品川伊平太・船頭八(坂東善次)一簾、かつら木御ぜん・名古屋山三・金や金五郎(4)花井才三郎)、斯波多門之頭(市川新蔵) (3)寿美蔵、こし元袖がぎ・藤六妹おさわ(澤村稲三郎)、けいせい遠やま・いてうのまへ・与右衛門妹およし(岩井芳之助)、お国・がくの小さな(市川おの江)。

「天竺徳兵衛韓噺」（上演年表）

西暦 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
○ 一八一四 文化11	5 (22)	市 村 座	復 再 松 緑 刑 部 話 七 幕 統	谷沢多仲実は南蛮の万海・侍女早百合・大倉刑部・おさかべ姫・暮仙人(1)尾上松緑、駒木娘なでしこ(2)松本米三、千の利久・佐々内蔵之助(2)市川門三郎)、利久娘常夏後に但馬やおなつ・与次郎女房・お茶びいのおいわ(岩井兼三郎(6)半四郎)、深尾清十郎・遠廻し与治郎・羽根川高景・天竺徳兵衛・別所小三郎(市川團十郎(5)海老蔵)、姫路笠うり源十郎(市村龜三郎(1)坂東亀蔵)。 ※6月7日まで。『歌舞伎年表』
△ ◎ ○ 一八一七 文化14	8 (1)	中 村 座	追 善 累 扇 子 箱 入 七 間 折	薩島宗観・羽生屋助四郎(5)松本幸四郎)、天竺徳兵衛・葛飾の正作・浮島多門の頭・座頭徳市・芸者重井筒の累・木下川与右衛門・千原左近(尾上菊五郎(1)大川橋蔵)、信田の小太郎(4)中村七三郎)、廻し男金五郎(坂東彦三郎(1)亀蔵)、芸者小さん・小山の息女千寿のまへ(中山亀三郎)、熊川伊平太(坂東熊平)、下女おさの(中山常次郎)、こし元袖垣(岩井梅蔵)、藤六妹おかね(坂東三津三)、猪倉門兵衛・足輕宗兵衛(市川宗三郎(1)成田屋宗兵衛)、桂源吾(1)市川七蔵)、けいせい小萩・里見の息女渚娘(2)松本米三)、奴磯平(坂東巖助(1)森田勘弥)、見世物師藤六(市川友蔵)、与五郎女ほうおきく・乳人宿り木(山科甚吉(4)小佐川常世)、里見左京之進・若見良助(2)関三十郎)、宗観妻夕浪・かつしかのお重(1)中村大吉)、浮島多門の頭・渡守曲金の与五郎(3)坂東三津五郎)、小山時五郎(中村伝九郎(2)勘三郎)。 ※「尾上松緑三回忌」
追 善 累 扇 子 箱 入 七 間 折 発 端 手 古 奈 明 神 の 場 ・ 二 幕 目 宗 観 屋 鋪 の 場 ・ 三 幕 目 葛 飾 隠 家 の 場 ・ 四 幕 目 里 見 屋 形 の 場 ・ 五 幕 目 重 井 筒 の 場 ・ 七 幕 目 木 下 川 与 右 衛 門 の 場 ・ 大 尾 平 井 祭 祀 の 場	薩島宗観・羽生屋助四郎(5)松本幸四郎)、天竺徳兵衛・葛飾の正作・浮島多門の頭・座頭徳市・芸者重井筒の累・木下川与右衛門・千原左近(尾上菊五郎(1)大川橋蔵)、信田の小太郎(4)中村七三郎)、廻し男金五郎(坂東彦三郎(1)亀蔵)、芸者小さん・小山の息女千寿のまへ(中山亀三郎)、熊川伊平太(坂東熊平)、下女おさの(中山常次郎)、こし元袖垣(岩井梅蔵)、藤六妹おかね(坂東三津三)、猪倉門兵衛・足輕宗兵衛(市川宗三郎(1)成田屋宗兵衛)、桂源吾(1)市川七蔵)、けいせい小萩・里見の息女渚娘(2)松本米三)、奴磯平(坂東巖助(1)森田勘弥)、見世物師藤六(市川友蔵)、与五郎女ほうおきく・乳人宿り木(山科甚吉(4)小佐川常世)、里見左京之進・若見良助(2)関三十郎)、宗観妻夕浪・かつしかのお重(1)中村大吉)、浮島多門の頭・渡守曲金の与五郎(3)坂東三津五郎)、小山時五郎(中村伝九郎(2)勘三郎)。 ※「尾上松緑三回忌」			

<p>◎ 一八二一 文政 4</p>	<p>6 (吉) 大坂 堀江市の側芝居</p>	<p>お国 御前化粧鏡</p>	<p>◎ 一八二一 文政 3</p> <p>7 (20) 大坂 角の芝居 (座本 中村松世)</p> <p>菊<small>きく</small>月<small>つき</small>入<small>いり</small>ふね<small>ね</small>の<small>の</small>船<small>ぶね</small> 碓<small>うし</small>七<small>しち</small>挺<small>たて</small> 噺<small>ばなし</small></p> <p>天竺東兵衛・不破伴左衛門・座頭菊市・狩野四郎次郎・木下川与右衛門・女房かさね・累 靈魂(尾上菊五郎Ⅱ(1)大川橋蔵)、細川修理之介(松本錦吾)、かつら源吾・居合ぬき長介 (尾上春五郎)、山部嘉藤次・伊藤軍兵衛(中村松助)、つか本伊曾次・ごふくや忠兵衛 (中山甚五郎)、与五郎妹おきく・こしもと袖かき(市川瀧三郎Ⅱ中村富瀧)、けいせい遠 山(4)嵐小六、熊川伊平太・門番藤次兵衛(大谷杉蔵)、名古や山左(富士松山十郎)、 廻し男金五郎(大谷此友)、山名時五郎・見せ物師藤六(市川市鶴)、世継瀬平(4)桐野谷 権十郎)、藤六妹おかね(嵐染之助)、累井筒おふさ・庄や沖右衛門(3)桐山紋次、やつ こ磯平・かつらき御前(1)市川七蔵)、羽生や勘四郎・いばらき門兵衛(嵐団八)、宗観お く方夕浪・姉おくに・累井筒小きん(1)中村歌六、渡辺民部之介・奴岡平(中山文七Ⅱ (1)百花)、薩島宗観・浮世又平(2)大谷友右衛門)、駒形蔵之進(中村歌右衛門Ⅱ(1)玉助)、 いてうのまへ(中村松世)。</p> <p>◎ 一八二一 文政 1</p> <p>7 (24) 名古屋 大須芝居 (兩名代 相模椽 和泉屋)</p> <p>天竺徳兵衛 韓噺 七冊統</p> <p>◎時代は褥に召たる東山殿/世話は八重撫子の累井筒 渡辺民部之助逸友・佐々木家奴岡平(荻野仙花Ⅱ(3)伊三郎)、吉岡宗観・羽生屋助四郎 (尾上松緑)、茨木門兵衛・足軽門兵衛・母妙林・渡し守浮世又平(嵐三八)、山名時五郎 ・山住伊平太(大谷候兵衛)、佐々木後室かつら木御せん・藤六妹おかね(岩井亀次郎)、 大友駁負之助政元(松本錦吾)、犬上団八・船頭ちよき助(澤村紀次)、大友家の奴磯平・ 門第大蔵(尾上梅五郎)、居合ぬき長井長助(市川森蔵)、かつら源吾国次(尾上仙蔵)、 山三妹いてうの前(桐の谷亀三郎)、こし元袖がき(中山錦車)、名古屋山三元春・廻し男 かなや金五郎(市川新蔵Ⅱ(3)寿美蔵)、世継瀬平・庄や沖右衛門・見世物師藤六(3)桐山 紋次)、又平女房およし、宗観妻夕浪・瀬平娘お国(山科甚吉Ⅱ(4)小佐川常世)、けいせい 遠山・げいしや額の小きん(岩井兼三郎Ⅱ(6)半四郎)、天竺徳兵衛・狩野四郎次郎・土佐 の又平・座頭徳市・不破伴左衛門・重井筒のかさね・喜怒川の与右衛門(尾上菊五郎Ⅱ(1) 大川橋蔵)。</p>
<p>◎ 一八二一 文政 4</p>	<p>6 (吉) 大坂 堀江市の側芝居</p>	<p>お国 御前化粧鏡</p>	<p>◎ 一八二一 文政 3</p> <p>7 (20) 大坂 角の芝居 (座本 中村松世)</p> <p>菊<small>きく</small>月<small>つき</small>入<small>いり</small>ふね<small>ね</small>の<small>の</small>船<small>ぶね</small> 碓<small>うし</small>七<small>しち</small>挺<small>たて</small> 噺<small>ばなし</small></p> <p>天竺東兵衛・不破伴左衛門・座頭菊市・狩野四郎次郎・木下川与右衛門・女房かさね・累 靈魂(尾上菊五郎Ⅱ(1)大川橋蔵)、細川修理之介(松本錦吾)、かつら源吾・居合ぬき長介 (尾上春五郎)、山部嘉藤次・伊藤軍兵衛(中村松助)、つか本伊曾次・ごふくや忠兵衛 (中山甚五郎)、与五郎妹おきく・こしもと袖かき(市川瀧三郎Ⅱ中村富瀧)、けいせい遠 山(4)嵐小六、熊川伊平太・門番藤次兵衛(大谷杉蔵)、名古や山左(富士松山十郎)、 廻し男金五郎(大谷此友)、山名時五郎・見せ物師藤六(市川市鶴)、世継瀬平(4)桐野谷 権十郎)、藤六妹おかね(嵐染之助)、累井筒おふさ・庄や沖右衛門(3)桐山紋次、やつ こ磯平・かつらき御前(1)市川七蔵)、羽生や勘四郎・いばらき門兵衛(嵐団八)、宗観お く方夕浪・姉おくに・累井筒小きん(1)中村歌六、渡辺民部之介・奴岡平(中山文七Ⅱ (1)百花)、薩島宗観・浮世又平(2)大谷友右衛門)、駒形蔵之進(中村歌右衛門Ⅱ(1)玉助)、 いてうのまへ(中村松世)。</p> <p>◎ 一八二一 文政 1</p> <p>7 (24) 名古屋 大須芝居 (兩名代 相模椽 和泉屋)</p> <p>天竺徳兵衛 韓噺 七冊統</p> <p>◎時代は褥に召たる東山殿/世話は八重撫子の累井筒 渡辺民部之助逸友・佐々木家奴岡平(荻野仙花Ⅱ(3)伊三郎)、吉岡宗観・羽生屋助四郎 (尾上松緑)、茨木門兵衛・足軽門兵衛・母妙林・渡し守浮世又平(嵐三八)、山名時五郎 ・山住伊平太(大谷候兵衛)、佐々木後室かつら木御せん・藤六妹おかね(岩井亀次郎)、 大友駁負之助政元(松本錦吾)、犬上団八・船頭ちよき助(澤村紀次)、大友家の奴磯平・ 門第大蔵(尾上梅五郎)、居合ぬき長井長助(市川森蔵)、かつら源吾国次(尾上仙蔵)、 山三妹いてうの前(桐の谷亀三郎)、こし元袖がき(中山錦車)、名古屋山三元春・廻し男 かなや金五郎(市川新蔵Ⅱ(3)寿美蔵)、世継瀬平・庄や沖右衛門・見世物師藤六(3)桐山 紋次)、又平女房およし、宗観妻夕浪・瀬平娘お国(山科甚吉Ⅱ(4)小佐川常世)、けいせい 遠山・げいしや額の小きん(岩井兼三郎Ⅱ(6)半四郎)、天竺徳兵衛・狩野四郎次郎・土佐 の又平・座頭徳市・不破伴左衛門・重井筒のかさね・喜怒川の与右衛門(尾上菊五郎Ⅱ(1) 大川橋蔵)。</p>

「天竺徳兵衛韓嘶」（上演年表）

西暦年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
一八二二 文政4	7 (25)	京 因幡業師芝居 (名代 蛭子屋吉郎兵衛)	お国御前 化粧鏡 絵入八冊	名古屋山三・世継瀬平(市川甚之助)、瀬平女房おくら・こしもとみふね誠は重堂丸女房(澤村吉太郎)、不破伴左衛門(片岡仁三郎)、細川勝元(中山他之助)、天竺徳兵衛誠は重堂丸・土佐又平・お国御ぜん・松林賢・中納言光成(嵐三津五郎)。
一八二二 文政5	2 (10)	金沢 川上南芝居 (座本 菊川松之助)	天竺徳兵衛聞書往来 大序より大切迄	又平女房おこの・けいせいこの花(澤村吉太郎)、徳兵衛女房りつ(坂東吉三郎)、いてふの前(嵐亀三郎)中山亀三郎、けいせい折づる(嵐松次郎)、仲居おくら・山三女房葛城(市川紅友)、名古屋山三・世継瀬平(浅尾奥蔵)、狩野四郎次郎(坂東菊太郎)、夜番五作・てづまし豆蔵(澤村蝶五郎)、犬上団八・ば、おてふ(坂東今五郎)、奴岡平(三折由亀)、細川勝元・桜井帯刀(中村小市)、長谷部当太郎・庄やぬけ作(谷村楯九郎)、不破道犬・作蔵院実は猪熊門兵衛(坂東七五郎)、不破伴左衛門・羅こら仙人・百姓仁作(中山新七)、浮世又平・御国御前・御国御前幽霊・天竺徳兵衛・松林どくろ(嵐三津五郎)。
一八二三 文政6	3 (5)	名古屋 桶町常芝居 (名代 辰巳屋猪三郎 座本 津屋長三郎)	天竺徳兵衛入船物語 真帆五反	⑨異国に蝦蟇仙人／本朝に吉岡宗観 蝦蟇仙人・細川勝元・小和田小平治・小平治女房お船(松嶋巳之助)、娘おかち(瀬川菊茂)、おりへひめ(市川甚三郎)、こし元袖垣(中村歌妻)、桑名屋徳蔵・吉岡宗観(嵐寿之助)、氏原げんば・女房おぬく(三折蔵之助)、百しやう万作(市川米蔵)④小團次)、女房おしほ(百村福之助)、大友佐賀次郎(市川勇蔵)、川上太郎(中村鶴治)、北条時五郎・女房おなべ(市川団作)、宗観妻夕なみ(中村花妻)、天竺徳兵衛(中村福之助)。 ※子供芝居。
一八二三 文政6	ニノ 替り	伊勢 古市芝居 (座本 嵐春吉)	天竺徳兵衛入船物語 真帆五反	天竺徳兵衛(中村福之助)。 ※子供芝居。 Ⅱ『伊勢歌舞伎年代記』

<p>文政 9</p>	<p>一八二四 文政 7</p>
<p>6</p>	<p>8 (10)</p>
<p>京 四条北側大芝居 名代 早雲長太夫 亀谷久米之丞</p>	<p>中 村 座</p>
<p>天竺徳兵衛韓嘶 聞書七冊 第一柳ヶ浦雨舎の段・第二宗観屋鋪の段・第三野宿の里の段・第四名古屋の段・第五両国広小路の段・第六重井筒の段・第七与右衛門内の段・第八平井祭礼の段</p>	<p>音 菊高麗窓 相崎の首尾も四番統 浄瑠璃濡袖浮名綻 第二ば ん目序幕に相動申候</p>
<p>(1)大川橋蔵。</p>	<p>◎日本駄右衛門 / もろ越姫 / 天竺徳兵衛 日本駄右衛門・長崎次郎為久・荒五郎茂兵衛 (5) 松本幸四郎、玉島逸当娘お才後にわか なや若草・茂兵衛女房おさん (岩井兼三郎) (6) 半四郎、月元円秋・大経師手代伊之助実 は月元始之助 (三折源之助) (4) 大五郎、渡辺左門・子鉄之助 (市川高麗蔵) (1) 松本錦 升、佐々木六角義賢・大経師後家おとら (浅尾友蔵) (1) 与六、佐々木の公達高千代君 (関宗太郎)、玉島逸当・玉島幸兵衛 (2) 関三十郎、石塚玄蕃・大経師手代助右衛門 (松 本小次郎)、玉島下部藤助 (嵐冠之助)、荏原甚内・講釈師赤松梅龍 (大谷門蔵) (3) 馬十、 大和田源吾・与田六之進 (尾上蟹十郎)、唐土姫のめのと左枝・下女おはる (尾上菊次郎 中村富滝)、井筒女之助 (3) 尾上松助、飭磨の五作・玉島の下部五兵衛・大経師下男太 助 (嵐冠十郎) (2) 猪三郎、唐土娘・若菜屋女房おはま・大経師の娘お玉 (5) 瀬川菊之 丞)、天竺徳兵衛・那伽犀那尊者実は赤松満祐・高千代丸めのと五百機・大経師茂兵衛 (尾上菊五郎) (1) 大川橋蔵、細川政元・昼とんひ喜太郎 (中村伝九郎) (2) 勘三郎。</p>

「天竺徳兵衛韓嘶」（上演年表）

西暦 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
一八二八 文政11	10 (21) ~	金沢 川上芝居 (座本 菊川松之助)	天竺徳兵衛異国嘶 五幕	宗閑奥方よせ浪・大淀妹おきく(尾上菊三郎)、浪人八内・犬上団八(市川八蔵)、こしもと几帳・いてうの前(岩井七太郎)、けいせい大淀(岩井松之助)、吉岡宗閑・渡部民部之介(4)岩井喜代太郎)、浪人門兵衛(片岡京四郎)、奴磯平・かつら木御前(尾上梅五郎)、足軽岩平・浪人金太夫(尾上岩五郎)、庄屋沖右衛門・世つぎ瀬平(尾上助次郎)、桂源吾・大友靱貞之介(尾上菊蔵)、山名時五郎・足軽甚平(1)中村芝十郎)、名古屋山三三元春(3)尾上松助)、鹿野四郎次郎・座頭徳市・不破伴左衛門・天竺徳兵衛(尾上菊五郎)1)大川橋蔵)。
◎ 一八二九 文政12	8 (吉) ~	伊勢 古市常大芝居 (名代 岩出屋勘左衛門 座元 尾上梅三郎)	天竺徳兵衛韓嘶 五幕	宗観女房夕なみ・遠山姉お国(岩井扇紫)、けいせむ遠山・がくの小さな・奥女中竹川(瀬川あやめ)、名古屋山三元春・船頭のつきり長吉・正木多聞(3)尾上松助)、山名時五郎・かつらぎ御ぜん(尾上梅五郎)、庄屋津右衛門・みせもの師藤六(尾上助次郎)、世継瀬平・民部之助逸友・うき世又平(2)市川門三郎)、大友靱貞之助・勝間源吾(尾上菊蔵)、やつこ磯平・金谷金五郎(尾上幸十郎)、いばら木門兵衛(片岡京四郎)、花扇屋才兵衛・吉岡宗観・羽生屋助四郎(大谷門蔵)3)馬十)、狩野四郎次郎元信・天ちく徳兵衛・座頭とく市・不破伴左衛門重勝・きぬ川の与右衛門・げいしやかさね・東松の長男大日丸(尾上菊五郎)1)大川橋蔵)。

一八三二 天保3	8 (2)	河原崎座	天竺徳兵衛韓嘶 七幕続 発端 逢瀬も嬉しき雨舎の竺松・二幕目 念願を受つぐ妖術の一卷・三幕目 真意を定めて手練の白刃・四幕目 同否ど答へも山彦の木琴・五幕目 浮名も流るる濃紅の楓衣・六幕目 思念を包みし怪談の袱子・七幕目 言下に納る名画の活鯉	細川修理之助政元・渡し守浮世又平・吉岡宗観(坂東三津五郎) (1) 森田勘弥、奴鹿蔵・かなや金五郎 (3) 尾上松助、世継瀬平・見世物師藤六 (1) 成田屋宗兵衛、宗観妻夕浪・遠山姉おくに・与右衛門妹おきく(中村琴丞、佐々木桂之助・奴音平(尾上新七)、山名時五郎・後室阿国御前(尾上梅五郎、又平娘おいさ(尾上紋三郎)、山三妹いてうの前・仲居おさの(松本にしき)、藤六妹おかね・奥女中袖垣(岩井春次、足軽彦左衛門・山野部伊平太(坂東彦左衛門、庄屋松郎兵衛・尼妙りん (2) 惣領甚六、名古屋山三・元春・岡平(坂東三津太郎)、茨木門兵衛・羽生屋助四郎 (4) 大谷友右衛門、山三女房かつらぎ・額の小さん(尾上栄三郎) (4) 菊五郎)、けいせい遠山・四郎次郎女房お六・かつしかのお十(岩井兼三郎) (6) 半四郎)、天竺徳兵衛実は大日丸・土佐の又平・座頭徳都・木下川の与右衛門・かさね井筒のかさね・狩野四郎次郎・不破伴左衛門(尾上菊五郎) (1) 大川橋蔵、東山よし政公 (6) 河原崎権之助。
一八三二 天保3	8	大坂 若太夫芝居	音菊漢入船	木曾官兄弟実是天竺徳兵衛 (2) 尾上多見蔵、宗観(大谷門蔵) (3) 馬十、山名時五郎(市川新四郎)、やつこ磯平(尾上多口郎)、宗観妻夕浪(片岡松江)。
一八三三 天保4	7 (吉)	京 四条南側大芝居 名代 布袋屋梅之丞 都万太夫	天竺徳兵衛韓嘶 統六冊	大日丸・徳市検校・天竺徳兵衛 (2) 尾上多見蔵、紅寿ひめ(尾上梅朝)、宗観妻夕浪(澤村里蝶)、奴いそ平(尾上菊蔵)、山名時五郎・大内但馬守(市川新四郎)、吉村宗観(大谷門蔵) (3) 馬十。

「天竺徳兵衛韓嘶」(上演年表)

「天竺徳兵衛韓噺」（上演年表）

西曆年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
◎ 一八三四 天保5	7	桑名 春日社内常芝居 (名代) 蓬菜屋千代吉 座本 尾上菊之助	天竺徳兵衛韓噺 十冊物読切	よし岡宗親実は朝鮮国木曾官・渡辺民部逸友・羽生屋助四郎(3)市川寿美蔵、宗親妻夕浪・藤六妹おかね(坂東かてう)、山三妹銀杏の前(中村富二郎)、野宿の里世継瀬平・庄屋沖右衛門(尾上扇蔵)、遠山娘おくに・又平妹おみや(尾上梅之丞)、かさね井筒小ぎく(尾上菊之助)(4)栄三郎、名古屋山三元春(3)尾上松助、大友の下部磯平・金谷金五郎(中島勘蔵)、こし元袖垣(澤村東蔵)、大友鞆貞之介政元(小佐川篤五郎)、山名時五郎(尾上伝三郎)、けいせい遠山・山三妻葛城・けいこ小さん(尾上栄三郎)(4)菊五郎、天竺徳兵衛・座頭徳市・不破伴左衛門実は木曾官一子大日丸・かさね井筒かさね・木下川与右衛門・土佐の又平(尾上菊五郎)(1)大川橋蔵。
◎ 一八三四 天保5	8	豊橋 吉田芝居 (名代) 朝倉屋猪三郎 座本 尾上菊之助	天竺徳兵衛韓噺 十冊物読切	よし岡宗親実は朝鮮国木曾官・渡辺民部逸友・羽生屋助四郎(3)市川寿美蔵、宗親妻夕浪・藤六妹おかね(坂東かてう)、山三妹銀杏の前(中村富二郎)、野宿の里世継瀬平・庄屋沖右衛門(尾上扇蔵)、遠山娘おくに・又平妹おみや(尾上梅之丞)、かさね井筒小ぎく(尾上菊之助)(4)栄三郎、名古屋山三元春(3)尾上松助、大友の下部磯平・金谷金五郎(中島勘蔵)、こし元袖垣(澤村東蔵)、大友鞆貞之介政元(小佐川篤五郎)、山名時五郎(尾上伝三郎)、けいせい遠山・山三妻葛城・けいこ小さん(尾上栄三郎)(4)菊五郎、天竺徳兵衛・座頭徳市・不破伴左衛門実は木曾官一子大日丸・かさね井筒かさね・木下川与右衛門・土佐の又平(尾上菊五郎)(1)大川橋蔵。

△ ◎ ○	△ ◎ ○	△ ◎ ○	△ ◎ ○
天保 12	(15) 7 ~ (2) 9	中 村 座	天竺徳兵衛 万里入船 着岸四番統
一八四〇	9 ~	伊勢 中之地藏芝居	天竺徳兵衛
一八三八 天保 9	(22) 6 ~	中 村 座	音 菊 家 怪 談の 合巻七冊
<p>細川修理之助政元・吉岡宗観・羽生や助四郎(坂東彦三郎)Ⅱ(1)亀蔵、名護屋山三元春・管まはし金五郎(3)尾上松助、けいせい遠山・葛城御前・芸者小さん(2)尾上菊次郎)、山名左衛門・世継瀬平(関歌助)、犬上団八・山住伊平太(中村鶴蔵)Ⅲ(仲蔵)、舟増屋の女房おとき・質屋の手代利助(中村森五郎)、見せもの師藤六・庄や□郎兵衛(大谷曾呂平)、足軽権平・赤井長助(尾上岩五郎)、山三妹銀杏の前・水茶屋おきく(瀬川菊代)、こし元袖垣・藤六女房おかつ(中村駒次郎)、佐々木桂之助(山科甚吉)、奴磯平(尾上雷助)、山名時五郎・茨木門兵衛・重井筒の妙林(尾上菊四郎)、佐々木の後室阿国御前・又平妹おみつ(1)中村芝鶴)、奴岡平・浮世又平(市川団三郎)、宗観妻夕波・遠山姉お沢(4)小佐川常世)、重井筒のかさね・累の亡霊・天竺徳兵衛・狩野四郎次郎元信・座頭とくいち・不破伴左衛門重勝・木下川与右衛門(尾上菊五郎)Ⅱ(1)大川橋蔵。</p> <p>Ⅱ『歌舞伎年表』</p> <p>左京妹なきさ・こし元ふせや(2)岩井松之助)、小山時五郎(中村鶴蔵)Ⅲ(仲蔵)、岩淵丹下・舟乗八兵衛(尾上岩五郎)、奴磯平・瑞了和尚(市川広五郎)、いづ、屋長吉(中村寿三郎)、里見左京・岩倉形部(中村鶴五郎)、左京妻しからみ・女奴おりき(澤村国三郎)、今川伊予之介・あめうり太郎作(尾上多蔵)、磯島頼母・船乗権兵衛(市川雷蔵)、天竺徳兵衛・松崎校校・唐使梅新朝・木曾官一子大日丸・大工六三郎・高橋左市郎・左市郎死霊(2)尾上多見蔵)、細川修理之助頼之・奴岡平・高橋新十郎(3)嵐吉三郎)、今川郡領貞広・よしみや治右衛門(嵐冠十郎)Ⅱ(2)猪三郎、宗観女房夕浪・乳人袖垣・いづ、やおかぢ(4)小佐川常世)、蔵人妻秋篠・げいしやかしく(尾上栄三郎)Ⅱ(4)菊五郎)、藤川蔵人・吉岡宗観・かしく兄金五郎(坂東彦三郎)Ⅱ(1)亀蔵。</p> <p>※日付は『江戸芝居番付朱筆書入れ集成』による。</p>			

「天竺徳兵衛韓噺」（上演年表）

西曆 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
◎ 一八四一 天保12	9 (吉)	大坂 筑後芝居 (座本 市川助太郎)	天竺徳兵衛韓噺	◎尾上松緑／廿七回忌追善 細川政元（市川助寿郎）、おもだか姫（中村玉江）、いてうのまへ（中村梅花Ⅱ(4)松江）、妹はつせ（尾上梅三郎）、奥方夕なみ（尾上菊三郎）、かづらき（尾上梅之丞）、山名時五郎（市川友藏）、吉岡宗観（大谷門藏）、名古や山三（③尾上松助、笹の才ぞう（1）市川新十郎）、島崎だん平（市川助市）、佐々木権之介（市川竜十郎）、奴いそ平（尾上多見十郎）、奴音平（尾上雷十郎）、庄屋沖右衛門（大谷曹呂平）、奴戸田平（尾上梅五郎）、山名左衛門（市川新四郎）、吉良義政（三折他人Ⅱ(5)大五郎）、仁木頼貞（②市川男女藏）、天竺徳兵衛・座頭菊市（尾上菊五郎Ⅱ(1)大川橋藏）。
◎ 一八四五 弘化2	6 (吉)	名古屋 大須芝居 (両名代 和泉屋相模椽)	郷鏡 天竺徳兵衛	舟頭徳兵衛（風鶴藏）、尾形良介（嵐橋之助）、藏人（嵐葛十郎）、左近之進（中村三津之助）、蛇見六（市川蝶九郎）、娘おしほ・小しやう吉弥（中村八重吉）、徳兵衛女房お綱・おく方夕浪（澤村菊太郎）、磯さき・小きく（嵐才じ）、折枝姫（嵐兼吉、こし元袖垣（瀬川滝之助）、宗貫・作太夫（嵐浜藏）、天竺徳兵衛（嵐簀助）。

<p>一八四七 弘化4</p>	<p>7</p>	<p>大坂 竹田芝居 (座本 実川延之助)</p>	<p>天竺徳兵衛漢国人船 大序ヨリ三段目マデ</p>	<p>高山内蔵の進(③市川市蔵、仲沢求女、庄や頓兵衛、奴つな平(實川延二郎)①延若、奴藏平・柳川新左衛門・舟田五郎(澤村松之助、岩倉市の正(市川助太郎、けいせい綾網・女奴お力・紅梅姫(三折由三郎)、乳人ふせや・宗観與方夕浪(三折徳二郎)、里見左京・大内縫殿の介(①三折稲丸)、信田小太郎・大内信濃之介(嵐団橋)、桜田大蔵・山名時五郎(尾上鶴松)、半部主斗・蛇つかひ勝六(市川市勝)、渚ひめ(三折亀蔵)、奴袖平(中村富蔵)、茶道珍才・磯崎主膳(實川延之助)①(八百蔵)、小山兵部・大内左島の守(尾上和孝)、吉岡宗観・坊主丸鉄(市川團二郎)③(荒五郎)、松浪檢校・船頭徳兵衛実是天竺徳兵衛(尾上和市)。</p>
<p>一八四七 弘化4</p>	<p>7 (25) 10 ~ (19)</p>	<p>市村座</p>	<p>尾上梅寿一代噺 二日替に仕奉入御覽に候其常磐津松行平第一ばん目三幕目に相勤申候・旅道連れて富本第一ばん目四幕目に相勤申候・心尺八音色清元第一ばん目四幕目に相勤申候</p>	<p>一世一代狂言楽 天竺徳兵衛・那伽犀那尊者・新造薄雲・琴浦母おつた・薄雲のゆうこん・桑名屋徳蔵・猫石の精・白井権八・土左衛門伝吉・江尻の磯多団七・踊の師匠小夜衣のお七・黙念の死神・東子僧次郎吉・六角左京亮義弘(尾上菊五郎)①(大川橋蔵)、佐々木弾正義賢・若徒八内・寺西関心・安森吉三郎・名古屋山左衛門(中村源之助)⑤(三折大五郎)、佐々木桂之助・湯島の三吉・小間物屋丈八(4)尾上栄三郎、浅田弥市・玉島磯之丞・安森源十郎(3)尾上松助)、八内の姉おいね・後室連御せん(坂東桂調)、吉岡の銀杏のまへ・小柴の新造春日野(澤村紀久之助)、佐々木のこし元夕浪・三浦屋の女房おつたま・三島おせん(吾妻藤蔵)①(市之丞)、円秋妻象潟・こし元琴浦・権八云号八重梅・樽や抱おくに(藤川花友)①(荻野扇女)、不破道犬(①中村芝十郎)、大明の皇女唐土姫・祭祀の練子松風のお市・杵屋おなつ・釣舟のお棍・徳兵衛女房牙のお才・樽屋女房おみつ・三浦屋小紫(①坂東しうか)、長崎次郎為村・道具屋の手代清七・玉島逸当・祭祀の練子行平の鍋・白柄十右衛門・一寸徳兵衛・日本駄右衛門(澤村宗十郎)③(助高屋高助)、月本因幡之助・祭祀の練子村雨の此兵衛・旅虚無僧英山・男達五尺染五郎・笹良三八・月本円秋(市村羽左衛門)⑤(竹之丞)。 ※日付は『江戸芝居番付朱筆書入れ集成』による。</p>

「天竺徳兵衛韓嘶」（上演年表）

西曆年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
◎ 一八四七 弘化 4	8 (吉)	京 四条南側大芝居 (名代) 都万太夫 (布袋屋梅之丞)	天竺 徳兵衛 韓嘶 上中下	高山内蔵之進 (3)市川市蔵、岩倉市の正・庄や頓兵衛 (市川助太郎)、奴いそ平・柳川新左衛門・舟田五郎 (澤村春之助)、けいせい綾絹・女奴お力・紅梅ひめ (三折由三郎)、小山兵部・大内左島の守 (中村富市)、大内信之介・里見左京 (市川森之助)、乳人ふせや・奥方夕なみ (三折徳三郎)、大内信之介・信田小太郎・奴つな平 (嵐玉橋)、桜田大義・山名時五郎 (尾上鶴松)、半部主斗・蛇遣ひ勝六 (市川市勝)、渚ひめ (尾上梅蔵)、奴袖平 (尾上鶴蔵)、茶道珍才・磯崎主膳 (實川延之助) (1)八百蔵、押岡宗観・坊主丸鉄 (嵐三代橋)、松浪檢校・天竺徳兵衛 (尾上和市)。
△ ◎ 一八四八 嘉永 1	8 (吉)	大坂 角の芝居 (座本) 市川猿松	三 国 大 市 川 対 恋 続七冊	④日本駄右衛門 / 天竺徳兵衛 玉島幸兵衛 (3)嵐瑞寛、月本主膳・吉田八蔵 (市川市紅)、月本因幡之助・吉野や伊平次 (坂東襄助) 森田又三郎、奴岡平 (市川玉蔵)、妾小磯 (市川寿美之丞)、漣御前 (中村歌保世)、娘十六夜 (3)中村三光、石塚玄蕃 (市川助六)、木庄助太夫 (生嶋寛右衛門) (1)嵐寛右衛門、細川政元・奴陸平 (市川吉左右)、笹野才ぞう (市川森之助)、長谷部運八 (市川助五郎)、山名持豊 (市川紅雀)、世つき瀬平・庄や左右衛門 (大川水馬)、徳しま幸十郎 (1)市川新十郎、本庄助八 (市川三蔵)、久下玄蕃 (中村桂車)、茨木門兵衛・判人勘八 (中山現十郎) (1)市蔵、松倉監物 (大川三朝) (3)尾上松助、けいせい遠山・唐土ひめ・けいせい小柴 (9)嵐三右衛門、佐々木義賢・庄や七郎兵衛 (市川助寿郎)、日本駄右衛門・幡すい長兵衛・寺西閑心・宇治兵部之介 (5)市川海老蔵、四郎次郎元信・那迦犀那尊者・新造八重梅・天竺徳兵衛・白井権八 (1)大川橋蔵。

一八四九 嘉永 2	6 (15) ~	河原崎座	天竺徳兵衛・韓嘸 十一幕	山三妻かつらき・十作女房おきぬ・奥女中累実は助の娘おるい・かさねの亡霊・けいしやおすへ実は助の娘おすへ(2)尾上菊次郎、名古屋山三・荒川蔵人・祐念上人(1)中村芝雀、細川政元・舟頭わしの長吉実は助の悴伊之吉・佐々木桂之助(坂東竹三郎) (5)彦三郎、山名時五郎・道心者西念(関歌助)、銀杏の前の秘袖垣・げいしやおきん(松本にしき)、山三妹いてうのまへ・平岩の娘分お升(市川福之丞)、犬上段八・箱廻し嘉兵衛(成田屋宗兵衛、奴磯平・かしのや利兵衛(勝谷七右衛門)、宗観妻夕浪・頼母娘葉末・八助妹おりく(5)市川団之助)、奴鹿蔵・茨木屋門兵衛・久保田下部八助(4)浅尾為十郎、吉岡宗観、浮川の岩松・百姓羽生村の助・六字南無右衛門(4)大谷友右衛門)、天竺徳兵衛実は大日丸・座頭徳都・百姓十作実は絹川甚三郎・舟頭神田川の与吉実は絹川甚七郎・久保田金五郎後に木下与右衛門・不破伴左衛門重勝(坂東彦三郎) (1)亀蔵)。 ※日付は『江戸芝居番付朱筆書入れ集成』による。
一八五一 嘉永 4	7 (吉) ~	大坂 若太夫芝居 (座本 市川玉猿)	波枕・韓問書 つぎ七まい	天竺徳兵衛・座頭徳市(中村駒三郎) (5)市川蝦十郎、細川勝元・隈本重平・英蔵人(5)三枰他人)、娘おきと・女房お賤(市川寿美之丞)、けいせい柏木・娘お三木(瀬川路之助) (5)山下金作、けいせい瀬川(風冠之助)、浅香御前(風璃登、石堂玄蕃・尼妙貞(尾上多手十郎、船頭五作(風寿之助)、も、の井播磨之介・娘呉竹実は海上太郎(1)三枰稲丸、足利よしてゐる・三木縫之介(尾上亀太郎、松永和田の介・茨三木右衛門(尾上賀朝)、人馬武兵衛・足がる段平(坂東四蔵、蝦蟇仙人・三よし長慶・駕かき正六(中村歌四郎)、玉川の万介・細川勝元(2)三枰源之助)。 舟頭徳兵衛(坂東眼子、細川勝元・千葉司之介(坂東登根五郎)、乳人五百機(尾上松光、宗観女房夕浪(中村吉太郎)、折枝姫(坂東愛治郎、徳兵衛女房おかじ(坂東のしほ)、佐々木桂之介(市川新蔵) (2)新升)、山名宗観(市川調十郎)、へびつかい蛇ひ六(松本高の右衛門)、作太夫・北条時五郎(尾上鰐十郎)、天竺徳兵衛・座頭徳市(坂東大十郎)。
一八五二 嘉永 5	5 (吉) ~	名古屋 橘町常芝居 (名代 山城屋清兵衛)	天竺徳兵衛・韓嘸 大序より大切まで	

「天竺徳兵衛韓嘸」(上演年表)

「天竺徳兵衛韓嘶」（上演年表）

西曆 年	（日）月	劇場	上演外題	配役・備考
◎ 一八五五 △ 安政 2	8 (吉)	大坂 中の芝居 （座本 藤川花松）	音聞 韓嘶曲者 入船五艘	高山藏之進（三枿梅舎）(5)大五郎、紅梅姫（尾上梅之丞）、船田五郎（尾上多見十郎）、大内信夫の介（3）中村駒之助、山名時五郎（浅尾玉六）(5)友藏、なごさひめ（中山みなと）、岸田左衛門（尾上多見右衛門）、陶入道・大内但馬の頭（5）大谷広右衛門、(4)中綱平（1）中村雀右衛門、女奴お力・女房ふせや（藤川友吉）(1)荻野扇女、奴碓平・里見左京・大内縫之介（市川滝十郎）、信田小太郎・岸田要（中村芝丸）、川上連平・茶道珍才（1）嵐義三郎、庄や頓兵衛（音羽次郎三）、秘袖垣（4）藤川八蔵、吉岡宗観・丸鉄坊（2）中村友三、女房夕浪・花町御前（4）山下金作、天竺徳兵衛・松浪檢校・唐使安城卿（2）尾上多見蔵。
◎ 一八五七 △ 安政 4	2 (28)	森田座	入り鱧 曾我取掛 四番つゞき	清水冠者義高・唐糸粹大太郎（中村福助）(4)芝翫、兼平娘かけはし・賤女早咲のお梅・手越の喜瀬川（3）片岡愛之助、千葉の息女待宵姫・奥女中玉蔭（坂東玉三郎）(4)簀助、石田為久・馬土箱根の畑六、海老名軍蔵（中村翫太郎）、源吾・柳ヶ瀬那次（2）嵐冠五郎、平野屋清八・永岡主水（嵐璃雀）、庄屋沖右衛門・堀江の藤吾（中村成蔵）、飛脚又蔵・土肥の次郎（松本武十郎）、佐々木左門之介・宇野小太郎行氏・下妻六郎（中村延雀）(1)實川延若、義仲一子大日丸後に七草四郎・船頭天竺徳兵衛実は大日丸・白浪檢校実 是天竺徳兵衛・常陸之介国之実是天竺徳兵衛・奴光平実は猫間光実（3）市川市蔵、太夫坊寛明実は頼蒙の霊・大江の広元（11）森田勘弥、吉岡宗鑑実は中山権の頭兼遠・赤沢十内（中村歌雀）(2)片岡市蔵、在所娘かつみのおはな（6）坂東三津五郎、千葉のこしもと袖かき（片岡愛三郎）、千葉之介常胤・石田刑部為次（坂東又九郎）、蒲の冠者範頼（7）市川団三郎、宗鑑娘夕なみ・範頼奥方渚の前（1）吾妻市之丞、三浦の息女片貝（2）尾上菊次郎、光盛妻唐糸・結城左衛門友重（6）市川團蔵。
◎ 一八五七 △ 安政 4	4 (23)	森田座	桜艷忍夜第一ばん目四幕目にて相つとめ申候	※(3)片岡愛之助休演、きせ川（坂東玉三郎）(4)簀助。(11)森田勘弥休演、二幕目（坂東又九郎）、広元（中村歌雀）(2)片岡市蔵。4月23日、(3)市川市蔵休演、徳兵衛（中村延雀）(1)實川延若。『江戸芝居番付朱筆書入れ集成』
◎ 一八五七 △ 安政 4	4 (23)	森田座	桜艷忍夜第一ばん目四幕目にて相つとめ申候	※日付は『江戸芝居番付朱筆書入れ集成』による。

「天竺徳兵衛韓噺」(上演年表)

	△	△◎	△◎○
一八八一 明治14	一八七八 明治11	一八七〇 明治3	一八五九 安政6
9 (5)	7 (13)	6 (25)	6 (3)
中島座	寿座	守田座	守田座
二葉源氏寿若松	天竺徳兵衛韓噺 増補三冊	右の内第七吉岡弟舎韓國話の場・第八親子奇遇授妙術の場・第九名護屋館奏木琴の場・第十同蓮池水中忽変の場	緘合戯場画草紙 七冊
<p> 「歌舞伎新報」第百六十九号</p>	<p>大日丸実是天竺徳兵衛後に縁寿檢校(寿三郎)。 之助(4)仲蔵。</p>	<p>④ 隅田川続佛 / 音聞天竺恋 / 曙島閨仇夢 船頭天竺徳兵衛実は宗観粹大日丸・田舎座頭徳市実是天竺徳兵衛・不破伴左衛門重勝(5)尾上菊五郎、名古屋の奥方桂木(澤村其答 (1) 曙山、佐々木桂之助、名古屋の下部鹿蔵(市川子團次 (5) 小團次、吉岡宗観実は朝鮮の木曾官(中村断太郎)、山名時五郎(中村雁八)、庄や沖右衛門(坂東喜知六)、蛇遣ひ蛇皮六(坂東八蔵)、奴磯平(中村芝太郎)、音川修理之介(1)市川左團次、名古屋山三元春(中村福助 (2) 梅玉)、名和無理之助(2)中村芝歌之助、無理之助妹銀杏の前(澤村千鳥 (7) 尾上芙蓉、宗観の妻汐浪(岩井しげ松)。</p>	<p>吉岡宗観(6)坂東又太郎、名古屋山三(坂東橋之助)、山名時五郎・奴鹿蔵(風吉六)、佐々木桂之助・笹野才蔵(山崎咲十郎)、犬上段八(澤村い太郎)、侍女袖垣(中村たけ次郎)、山三妹いてうのまへ(風三之助)、宗観妻夕なみ・山三妻かつらき(3)姉川源之助、庄や沖右衛門(坂東村右衛門、細川政元(澤村訥升 (4) 助高屋高助、天竺徳兵衛後不破伴左衛門・座頭徳市実は大日丸(市村羽左衛門 (5) 尾上菊五郎)。</p>

「天竺徳兵衛韓噺」（上演年表）

西曆 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
○ 一八八三 明治 16	11 (5)	市 村 座	増補 天竺徳兵衛 五幕 北野天神社の場・吉岡宗観 邸の場・鉄砲鍛冶内の場・ 同山中鉄砲腹の場・梅津掃 部邸の場	細川修理之助政元・奴鹿蔵(片岡我童Ⅱ(0)仁左衛門)、宗観の妻夕浪・覚蔵女房おりく (3)河原崎國太郎、梅津の室松ヶ江(4)岩井松之助)、石割源吾・吉岡宗観・大明の木曾 官(大谷門蔵)、庄屋沖右衛門(中村翫太郎)、蛇遣ひ段八(澤村升次郎)、奴磯平(5)市 川新蔵、覚蔵一子巳之松(坂東竹松Ⅱ(5)市村羽左衛門)、佐々木桂之助・笹野才蔵(7)澤 村訥子)、奴繁蔵(2)尾上菊之助)、船頭天竺徳兵衛・鉄砲鍛冶覚蔵・座頭徳市・斯波左衛 門義照・大明の大日丸(5)尾上菊五郎)、梅津の息女銀杏の前(坂東三津三)、梅津家の侍 女袖垣(尾上登美松)、山名時五郎・小島与四郎(4)尾上松助)、梅津掃部友春・中間猪 助・与四郎悖猪之助(1)坂東家橘)。

<p>明治23</p>	<p>一八九〇</p>	<p>明治18 12 （吉）</p>
<p>～ 6</p>	<p>金沢 卯辰末吉座</p>	<p>名古屋 守 座</p>
<p>天竺徳兵衛一代記実録 藝妖術古郷入船 二十五段</p>	<p>藝妖術古郷入船 二十五満来 第一 播州舞子ヶ浜の場・ 第二 徳兵衛一味の場・第 三 播州菊地館の場・第四 志賀之進追放の場・第五 秋雨御手付の場・第六 曾 根崎仕置の場・第七 乳人 静はた横死の場・第八 吉 岡典膳屋敷の場・第九 石 堂玄蕃追放の場・第十 菊 地館外場の場・第十一 外 堀水門の場・第十二 小松 原墓所の場・第十三 おは ぎ別れの場・第十四 黒崎 浜辺の場・第十五 五郎又 住家の場・第十六 室の津 桶やの場・第十七 夕風太 夫部やの場・第十八 徳兵 衛住家の場・第十九 摩爺 山麓の場・第二十 菊地別荘 の場・第二十一 同大手先の 場・第二十二 当土手辻堂の 場・第二十三 菊地御殿の場 ・第二十四 同唐門の場・第 廿五 天竺徳兵衛滅亡の場</p>	<p>唐崎志賀之進後に志賀大臣・周防灘鰐八（中村芝笑）、女房おふね・お部や秋菊・女房おはき後に夕なぎ（三柘他鶴）、大鳥佐加右衛門・石堂玄蕃・唐人団子（市川団四郎）、松永佐金吾・真弓之方・唐人市森（市川森治郎）、裁岡典膳・漁師五郎又後に畑の左衛門（坂東朱雀）、真葛三平・庄や木作・猪の口丹藏・雷源九郎（浅尾大車）、笹の貝藏・かこの浪六後に和田才介（嵐紫花蔵）、船人徳兵衛・天竺徳兵衛後に大鳥佐賀右衛門・志多村五作（嵐鱗花）。</p>
<p>『金沢市史』</p>	<p>『近代歌舞伎年表・名古屋篇』</p>	<p>鱗花、猿三郎、他鶴。</p>

「天竺徳兵衛韓噺」（上演年表）

西曆年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
一八九一 明治 24	7 (13)	吾妻座	天竺 徳兵衛 韓 譚 五番統 序幕 吉岡宗親邸の場・二 幕目 源範頼卿館の場・三 幕目 同奥殿広間の場・大 津目 範頼卿宴所の場	執権吉岡宗親・秩父庄司重忠(鶴五郎)、佐々木左門之助・長岡主水兼清(鉄次郎)、千葉之助常胤・下妻六郎・竹川次郎政房(獅童)、奴磯平・蒲冠者範頼公(百々蔵)、海老名弾正・石田刑部為久(中山現十郎)、蟹沢段八・近臣吉田金吾(市家六)、侍女袖垣(松蝶)、常胤息女待宵姫(此糸)、宗親妻夕浪(路鳥)、執権大江広元(友吉)、範頼御台渚の前(7)尾上芙蓉、契情喜瀬川(澤村其答)、高砂の船頭徳兵衛実は大日丸・白河の院使白浪檢校実是天竺徳兵衛・三浦常陸之助国之実は大日丸(伝五郎)。
一八九一 明治 24	8 (18)	仙台台座	音聞 天竺 徳兵衛 四幕 序幕 鞍馬山だんまりの場・ 二幕目 吉岡宗親屋敷の場・ 三幕目 裏手桶口捕物の場・ 四幕目 名古屋元春邸の場	摩那山の袈裟太郎・天竺徳兵衛・座頭徳市・斯波左衛門(5)尾上菊五郎、盜賊天明太郎・吉岡宗親・細川政元(1)坂東彦十郎、御曹子牛若丸・名古屋元春(2)尾上菊之助、木の葉天狗峯蔵・下浦磯平(菊四郎)、僧正坊実八・天明の妻お峯・山三妻かつらき(尾上栄三郎) (6)梅幸、宗親妻夕浪(菊十郎)。
一八九一 明治 24	11 (15)	深野座	音菊 天竺 徳兵衛 第一 宗親邸異国譚の場・ 第二 庭先鍾口妖術の場・ 第三 名古屋山三邸の場	名古屋山三(1)坂東家橘、佐々木桂之助(2)尾上菊之助、宗親基房佃垣(7)尾上芙蓉、名和無理之助(菊三郎)、奴磯平(幸蔵)、若徒新平(菊四郎)、山名時五郎(梅助)、蛇遣ひじやみ六(音五郎)、細川政元(1)坂東彦十郎、吉岡宗親(4)尾上松助、山三妻かつらき(尾上栄三郎) (6)梅幸、天竺徳兵衛・不破伴左衛門・座頭徳徳市(5)尾上菊五郎)。
一八九一 明治 24	12 (1)	深野座	音聞 天竺 徳兵衛 四幕 序幕 宗親屋舗の場・二番 目 裏手水門の場・三幕目 名古屋山三館の場	天竺徳兵衛・不破伴左衛門・座頭徳市(5)尾上菊五郎、佐々木桂之助・名古屋山三(2)尾上菊之助、山三妻葛城(尾上栄三郎) (6)梅幸、奴磯平(菊四郎)、山名時五郎(梅助)、庄屋李兵衛・山三の臣(扇蔵)、笹野才蔵(鶴五郎)、名和由利之介(幸蔵)、細川政元(1)坂東彦十郎、蛇遣ひじやみ六(音五郎)、宗親妻夕浪(岩井志げ松、袖がき(菊十郎)、銀杏の前(中村歌女之丞) 福芝、吉岡宗親(4)尾上松助)。

※愛知岐阜震災慈善演劇会。

「天竺徳兵衛韓嘶」（上演年表）

一八九四 明治 27	10 (31) ~	京都 阪井座	叢 <small>がまの</small> 妖 <small>のよう</small> 術 <small>じゆつ</small> 古郷 <small>こきやう</small> 入船 <small>のいりふね</small> 天竺徳兵衛 大序ヨリ大切マデ	お部家秋雨・妻おふね（市川照之丞）、吉岡典膳・漁師五郎又（市川鱗十郎）、菊地曾根之介（中村梅昇）、大鳥佐賀右衛門・佐藤六介（中村駒翁）、鶴若丸（市川小てる）、真弓の方・女房おはぎ・夕渚太夫（坂東初之丞）、笹野貝蔵（片岡当蔵）、唐崎志賀之進（中村里鶴）、乳人静はた・静はた亡霊（市川猿次郎）、津川主税（岩井染七）、周防灘鰐八・猪の口丹藏（市川重笑）、真葛三平（尾上多磨六）、石堂玄蕃（市川新五郎）、松永左金吾・猪の口丹下（嵐花香）、舟頭徳兵衛・百姓五作・天竺徳兵衛（市川重五郎）。
一八九五 明治 28	5 (5) ~	前橋 敷島座	増補天竺徳兵衛	天竺徳兵衛（2）尾上菊之助、吉岡宗賢・細川政元（4）尾上松助。
一八九五 明治 28	7 (30) ~	常盤座	天竺徳兵衛韓嘶	天竺徳兵衛（中村勘五郎）（4）仲蔵。 『配役総覧』第六版・第七版

「天竺徳兵衛韓噺」(上演年表)

西暦 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
一八九八 明治 31	6 (24) ~ 7 (20)	歌舞伎座	音菊 天竺徳兵衛 序幕 京都北野天神の場・同じく別当所の場・二幕目 吉岡宗観屋敷の場・三幕目 宗観邸裏手樋の口の場・大詰 梅津掃部屋敷の場	天竺徳兵衛・座頭徳市実(天竺徳兵衛・斯波左衛門義照実は大日丸(5)尾上菊五郎)、掃部妻松ヶ枝(尾上栄三郎(6)梅幸)、吉岡宗観・棒つき松平(4)尾上松助)、山名時五郎(尾上蟹十郎)、奴磯平・近臣笹良三藏(2)尾上和市)、梅津の妹銀杏之前(片岡亀藏(4)市藏)、佐々木桂之助・梅津掃部友春(市村家橘(5)羽左衛門)、庄屋沖右衛門・細川修理之助政元(3)片岡市藏)、宗観妻夕浪(2)坂東秀調、狩野雅業之助・奴鹿藏(三折福丸(梅昇)、石割源吾(団八)、蛇遣ひ段八(扇藏)、銀杏之前かしつき袖垣(あやめ)。
一八九五 明治 28	9 (9) ~	金沢 香林坊福助座	上演外題 入臈(いりふね)天竺徳兵衛実伝 大序より大切まで 第一 鎌倉八幡之場・第二 旭丸奉納の場・第三 八幡客殿の場・第四 三井寺誉祠の場・第五 組板岩術談の場・第六 吉岡宗観宅の場・第七 天竺徳兵衛物語の場・第八 宗観徳兵衛親子名乗の場・第九 裏手水門の場・第十 六浦別館の場・第十一 半沢六郎石田刑部争の場・第十二 座頭徳市木琴場・第十三 天竺徳兵衛水中入の場・第十四 源範頼狂らんの場・第十五 秩父重忠物語の場・第十六 三浦常陸之助上使場・第十七 喜瀬川重忠名のりの場・第十八 同れんぼの場・第十九 天竺徳兵衛術消の場・第二十 天竺徳兵衛亡の場	天竺徳兵衛・徳市・三浦常陸之助(坂東鶴之助(2)彦十郎)、秩父庄司重忠・吉岡宗因(5)嵐冠十郎)、源義頼・庄屋仲右衛門(嵐璃之助)、佐々木左門之介・足軽又蔵実(義時(中村千笑)、こし元袖垣・竹川正房(嵐橋猿)、知り物太七・待宵姫(三折米之助)、こし元若菊・早瀬主水(嵐冠五郎)、平忠盛・黒田よし高(中村津多七)、奴磯平・秩父重忠(中村梅香)、海老名弾正・大江広元(實川鬼笑)、清水左近・平清清八実(坂東鶴太郎)、千葉之助・海老名軍八・茶道珍才(中村雀之)、喜瀬川・奥方波江(坂東新朝)、奥方夕波・渚の前(嵐和歌太夫)。

「天竺徳兵衛韓噺」(上演年表)

一九〇一 明治 34	10 (7)	大阪 中 劇 場	天竺徳兵衛 不忍池ノ端川狩・忍ヶ岡籠 生蓮庵・宗門奉行役宅・佐 川義右衛門住家・御朱印船 永玉丸・住吉境内絵馬堂・ 高力信濃守浪宅・住吉本社 唐門前・鳥居源太郎談判・ 石町小桜風呂鬪争・数寄屋 河岸御堀端・浜町山田徳兵 衛居宅・菅中吹上御殿	南郷大隅守・高山半六(市川荒太郎) (4)荒五郎、鳥居源太・柳生但馬守(中村林若、南郷修理) (2)市川箱登羅、賢次郎母お北、信濃守妻、後室清月院(實川正朝)、島田賢次郎・北川新蔵 (2)中村玉七、高力左門 (1)中村霞仙、山田徳兵衛 (1)中村鷹治郎、佐川義右衛門・高力信濃守(中村福助) (2)梅玉、源太妹お信(實川菊次郎)、船頭小頭武平・酒井雅楽頭(中村扇昇、北条安房守・賢次郎妹おはる(嵐鯉昇、信濃守娘深雪、將軍家光公(中村政次郎) (3)梅玉)。 ※福地桜痴作。
一九〇三 明治 36	1 (30)	横浜 羽 衣 座	轟妖術古郷入船 十幕	薪車、左半次、吉蔵、吉三、芝蔭、惠美之丞他。 〓『近代歌舞伎年表・大阪篇』
一九〇三 明治 36	11 (17)	末 広 座	天竺徳兵衛 序幕 北野天神社頭の場・ 二幕目 吉岡屋形衛護の場・ 返し水門口怪異の場・大 詰名古屋山三郎の場	天竺徳兵衛(中村勘五郎) (4)仲蔵、政元(甌助)、桂之助(市松)、宗観(助五郎)、時五郎(市勝)、銀杏の前(桃枝)、鹿蔵(富之助)。 〓『横浜開港資料館所蔵芝居番付目録』
一九〇四 明治 37	7 (1)	大阪 明 治 座	天竺徳兵衛 四幕	〓『近代歌舞伎年表・大阪篇』
一九〇六 明治 39	7 (10)	市 村 座	音菊 天竺徳兵衛 序幕 吉岡宗観館の場・同 返し水門口の場・二幕目 梅津掃部館の場・大詰同 奥殿見頭の場	※新旧合同。 佐々木桂之助梅津方松ヶ枝(尾上美雀) (3)菊次郎、狩野雅楽介・奴鹿蔵(坂東三田八) (3)守田勘弥、山名時五郎(尾上幸蔵)、吉岡宗観(尾上蟹十郎)、奴磯平(菊松)、蛇遣ひ段八(音石郎)、宗観妻夕浪・梅津友春(尾上菊三郎)、一葉の前(尾上幸之助)、侍女袖垣(あや女)、笹野才蔵(音平)、足軽松平(梅助)、細川政元(1)中村吉右衛門、天竺徳兵衛実は大日丸・斯波左衛門実是天竺徳兵衛・座頭徳市実是天竺徳兵衛 (6)尾上菊五郎。

「天竺徳兵衛韓嘶」（上演年表）

西曆年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
一九〇六 明治 39	7 (14)	横濱 賑座	天竺徳兵衛	荒二郎、栄升、紅車。 『続歌舞伎年代記(坤)』
一九〇六 明治 39	8	静岡 若竹座	音菊 天竺徳兵衛 四幕 序幕 吉岡宗観館の場・返し 同水門口の場・大詰 梅津掃部屋敷の場・同奥殿見 あらわしの場	佐々木桂之助(尾上芙蓉Ⅱ)(3)菊次郎、梅津掃部(7)坂東三津五郎、吉岡宗観(4)尾上松助、天竺徳兵衛実は大日丸・斯波左衛門実は天竺徳兵衛・座頭徳市実は天竺徳兵衛(6)尾上菊五郎、妻夕浪(尾上栄三郎Ⅱ)(6)坂東彦三郎、一葉の前(梅之助)、袖垣(幸次郎)、細川政元(6)尾上梅幸。
一九〇七 明治 40	5 (4)	横濱 喜楽座	天竺徳兵衛 九幕	嵐巖次郎、梅葉、鶴若、(4)澤村源之助、鶴之助。 『横浜開港資料館所蔵芝居番付目録』
一九一〇 明治 43	8 (1)	新宿 宿座	天竺徳兵衛	天竺徳兵衛(団童)。 『配役総覧』第六版・第七版
一九二二 明治 45	3 (1)	真砂 座	天竺徳兵衛 三幕 序まく 吉岡宗観館の場・同水門口の場・大詰 名古屋山三屋敷の場	吉岡宗観(片岡我蔵)、同妻夕浪(坂東玉之助)、佐々木桂之助(坂東左門)、銀杏の前(3)中村歌女之丞、天竺徳兵衛実は木曾官一子大日丸・座頭徳市実は天竺徳兵衛・不破津左衛門実は天竺徳兵衛(尾上紋三郎)、侍女袖垣(尾上幸次郎)、若徒磯平(尾上喜久太郎Ⅱ)(5)嵐橋三郎、山名時五郎(片岡十兵衛)、名古屋山三(尾上榮之助)、細川修理之助(4)片岡市蔵。
一九一四 大正 3	1 (1)	演伎 座	音菊 天竺徳兵衛 吉岡宗観屋敷の場・同堀外水門口の場・名古屋山三屋敷の場	吉岡宗観(中村翫右衛門)、狩野雅楽之助(松本小次郎)、山名時五郎氏連(中村翫之助)、宗観妻夕浪・細川修理之助政元(中村梅昇)、舟頭天竺徳兵衛実は木曾官一子大日丸・座頭徳市実は天竺徳兵衛・不破津右衛門実は天竺徳兵衛(尾上紋三郎)、名古屋山三元春(尾上紋十郎)、山名妻かつら木(中村歌門)。

「天竺徳兵衛韓噺」(上演年表)

○	一九一四	7	帝國劇場	天竺徳兵衛 四幕四場 天竺徳兵衛(6)尾上梅幸、本多甲斐守・桂木民之進(7)澤村宗十郎、徳兵衛母お繁(藤間房子)、同妹お浦(森律子)、甲斐守の妾お妙(村田嘉久子)。 ※江見水蔭作。	⑨海事/史劇
○	一九一五	7	宮戸座	音聞 天竺徳兵衛 一 吉岡宗観邸の場・二水門口の場・三 梅津館の場・四 奥殿の場	天竺徳兵衛・座頭徳市・斯波左衛門義照(紋三郎)、佐々木桂之助・奴鹿蔵(高麗三郎)、吉岡宗観(寿朝)、銀杏の前(錦五郎・才蔵)、梅津掃部(吉松郎)、掃部奥方松ヶ枝(市川鬼丸) (3)尾上多賀之丞、細川政元・磯平(竹三郎)。
○	一九一七	8	京都座	天竺徳兵衛	⑩三河屋/十八番 天竺徳兵衛(2)市川荒太郎、佐々木桂三郎(中村鴈長)、夕照姫(實川延之丞)、妻夕浪(中村扇成)、細川政元(市川荒市郎)、吉田宗観(市川眼若)、板垣田助(4)市川荒五郎)。
○	一九一八	8	帝國劇場	音菊 天竺徳兵衛 序幕 吉岡邸水門の場・二幕 梅津掃部邸の場・葛城居間の場	天竺徳兵衛・座頭徳市・斯波左衛門重勝(6)尾上菊五郎、佐々木桂三郎・奴鹿蔵(13)守田勘弥、吉岡宗観(中村翫助)、狩野雅楽之助(5)市川新之助、銀杏の前(3)中村時蔵、梅津掃部(7)坂東三津五郎、掃部奥方葛城(3)尾上菊次郎、細川政元(6)坂東彦三郎)。
○	一九一八	10	御国座	音聞 天竺徳兵衛 序幕 吉岡宗観邸の場・二幕 裏手水門の場・一幕目 梅津掃部邸の場・同庭先見顯の場	天竺徳兵衛(紋三郎)、佐々木桂之助(中村幹尾)、吉岡宗観・奴鹿蔵(鶴十郎)、狩野雅楽之助(団九郎)、銀杏の前(幸次郎)、梅津掃部(6)市川団之助、掃部奥方葛城(紅若)、細川政元(竹三郎)、磯平(若猿)。
○	大正7	31	~	~	~

「天竺(徳兵衛)韓嘶」(上演年表)

西曆年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
一九三二 大正 11	1 (中旬)	神田劇場	天竺(徳兵衛) 三場 第一 吉岡邸裏手水門の場・ 第二 梅津掃部邸の場・第 三 同葛城部屋の場	天竺(徳兵衛)・座頭徳市・斯波左衛門義照(紋三郎)・奴鹿蔵(實川延久左、梅津掃部(1)中村吉十郎)・掃部奥方葛城(1)中村歌扇、細川政元(松本錦蔵)・磯平(才十郎)。
一九三三 大正 12	1 (3)	明治座	天竺(徳兵衛) 三幕 序幕 播州高砂浜辺の場・ 同龍山下座室の場・二幕目 荒井村此面浪宅の場・大 詰 高砂村桑右衛門内の場・ 加古川口浜辺の場	船頭徳兵衛(2)市川左團次、浪人北隅此面(市川寿美蔵(3)寿海、此面妹おうら(2)市川松葛)、船人文太(市川延升)、庄屋下男吉助(2)市川荒次郎)、漁夫桑右衛門(2)市川左升)。 ※岡鬼太郎作。
一九二四 大正 13	6 (1)	神田劇場	天竺(徳兵衛) 二幕 序幕 吉岡邸水門の場・大 詰 梅津掃部邸の場・葛城 居間の場	天竺(徳兵衛)・座頭徳市・斯波左衛門重勝(紋三郎)、梅津掃部(猿蔵)、掃部奥方葛城(1)中村歌扇、細川政元(金五郎)。
一九三四 昭和 9	4 (28)	観音劇場	新釈 天竺(徳兵衛)	天竺(徳兵衛)(市川鶴之助)。
一九三五 昭和 10	4 (1) (29)	歌舞伎座	音菊 天竺(徳兵衛) 水門口の場	『配役総覧』第六版・第七版 五代目尾上菊五郎三十三回忌追善延長興行 天竺(徳兵衛)(6)尾上菊五郎、下部磯平(2)尾上松緑。

「天竺徳兵衛韓噺」(上演年表)

昭和三十二 5 (29) ~ (5)	歌舞伎座 音菊 天竺徳兵衛 水門のだんまり	天竺徳兵衛(3)市川左團次、奴鹿蔵(17)市村羽左衛門。
昭和二十六年 6 (1) ~ (7)	名古屋御園座 音菊 天竺徳兵衛 序幕 吉岡宗観屋敷の場・大話 梅津掃部館の場	天竺徳兵衛実は木曾官一子大日丸・座頭徳市・斯波左衛門実は天竺徳兵衛(17)中村勘三郎、吉岡宗観実は木曾官(1)中村吉之丞、梅津掃部(5)中村福助(高砂屋)、山名時五郎(5)助高屋高助、宗観妻夕浪(中村歌五郎)、佐々木桂之助(中村梅枝(4)時蔵)、梅津息女銀杏の前(澤村源平(9)宗十郎)、下部磯平(坂東慶三(10)市川高麗蔵、庄屋沖右衛門(澤村源五郎)、細川修理之助(8)市川團蔵、奴鹿蔵(松本染之助(2)高麗五郎)、梅津妻葛城(澤村訥升(8)宗十郎)。
昭和二十六年 3 (2) ~ (25)	明治座 音菊 天竺徳兵衛 序幕 吉岡宗観屋敷の場・大話 梅津掃部館の場	天竺徳兵衛実は木曾官一子大日丸・座頭徳市・斯波左衛門実は天竺徳兵衛(17)中村勘三郎、吉岡宗観実は木曾官(1)中村吉之丞、梅津掃部(14)守田勘弥、山名時五郎(5)助高屋高助、宗観妻夕浪(6)市川団之助、細川修理之助(澤村田之助(3)曙山)、奴鹿蔵(松本染之助(2)高麗五郎)、梅津妻葛城(2)中村芝鶴)。
昭和三十三年 9 (2) ~ (22)	歌舞伎座 音菊 天竺徳兵衛 序幕 吉岡宗観屋敷の場・同返し同裏手桶の口の場・大話 梅津掃部屋形の場・同返し同奥御殿庭先の場	天竺徳兵衛実は木曾官一子大日丸・座頭徳市実は天竺徳兵衛・斯波左衛門重勝実は大日丸(6)尾上菊五郎、佐々木桂之助・梅津奥方葛城(市川男女蔵(3)左團次)、吉岡宗観・細川修理之介政元(6)大谷友右衛門、狩野雅楽之助(坂東竹三郎(4)尾上菊次郎)、山名時五郎氏連(5)尾上松助、庄屋沖右衛門(2)市川照蔵、下部磯平(6)坂東彦三郎、宗観妻夕浪(市川紅若、銀杏の前(尾上菊之助(7)梅幸)、侍女袖垣(4)尾上梅朝、梅津掃部元春(7)坂東三津五郎)。
昭和三十三年 5 (3) ~ (29)	大阪歌舞伎座 音菊 天竺徳兵衛 宗観邸水門の場	五世尾上菊五郎三十三回忌追善延長興行 天竺徳兵衛(6)尾上菊五郎、下部磯平(2)尾上松緑)。 『近代歌舞伎年表・大阪篇』

「天竺徳兵衛韓噺」（上演年表）

西曆 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
昭和32	5 (19)	歌舞伎座	音菊 天竺徳兵衛 水門のだんまり	天竺徳兵衛 (3)河原崎権十郎、奴鹿蔵 (6)尾上菊蔵。 ※第59回子供かぶき教室。
昭和33	8 (1) (25) ~	新宿松竹座	音菊 天竺徳兵衛 二幕四場 序幕 吉岡宗観屋敷の場・同裏手水門の場・大詰梅津掃部庭先の場・同奥座敷の場	天竺徳兵衛 (3)河原崎権十郎、銀杏の前 (5)坂東玉三郎、腰元袖垣 (5)坂東竹三郎、山名時五郎 (7)市川寿美蔵、蛇使い段八 (尾上多賀蔵)、石割源吾 (尾上佳緑)、若徒磯平 (尾上松鶴) (6)松助、佐々木桂之助 (1)尾上辰之助、傀儡師栄六 (坂東義助) (9)三津五郎、漁夫万兵衛 (10)岩井半四郎、天竺徳兵衛 (2)尾上松緑、宗観妻夕浪 (4)尾上菊次郎、庄屋冲右衛門 (5)尾上新七、吉岡宗観 (13)片岡仁左衛門。 ※国立劇場第五〇回歌舞伎公演。利倉幸一監修、藤間勘右衛門 (2)尾上松緑 振付。
昭和47	5 (27) ~	国立劇場	天竺 徳兵衛 韓噺 四幕七場 序幕 北野天神境内の場・同じく別当所の場・二幕目 須磨明石辺の海辺の場 比翼傀儡師・三幕目 吉岡宗観邸の場・同じく裏手水門の場・大詰 梅津掃部邸の場・同じく奥座敷の場	

□

一九八二 昭和57	7 (2) ~ (27)	歌舞 伎座	<p>続 獨道中五十三驛 天竺 徳兵衛 新 嘸</p> <p>四幕 序幕 第一場 京都今出川菊地館の場・同第二場 伊吹山々麓の場・同第三場 玄海灘唐船々上の場・同第四場 遠州灘沖合の場・第二幕 第一場 東海道掛川今川家本城奥殿の場・同第二場 同搦手水門の場・同第三場 東海道興津三保の松原の場・同第四場 同清見寺の場・第三幕 第一場 東海道吉原富士沼の場・同第二場 同蒲原小池の里小平次住居の場・大詰 第一場 東海道原宿興国寺城古館の場・第二場 同神奈川宿外れの場・第三場 同品川の場・第四場 武蔵国江戸城奥庭の場</p>
			<p>天竺(徳兵衛・座頭徳市・斯波左衛門義照・西大路明知・小池小平次・女房おとわ・傾城如月・小姓啓明・太鼓持季冬・女房おとく・婆初霜・枝折姫・相模のお菊・面売り太郎・花作り鳴雷(市川猿之助)②(猿翁)、吉岡宗観(⑦市川羽左衛門)、乳母袖垣・太田持資(6)澤村田之助、今川左馬次郎・馬士多九郎(4)市川段四郎)、奴磯平(5)中村歌六、枝折姫(4)中村時蔵、月若丸(市川熨斗弥)、狩野雅楽之助(中村歌昇)③(又五郎)、宗観妻夕浪(5)澤村源之助、尾形十郎(9)澤村宗十郎、今川妻葛城(7)市川門之助、医師天南(2)市川段猿、小平次父親正作(7)市川寿美蔵、妹おまき(6)中村東蔵)。</p> <p>※奈河彰輔脚本。</p>

「天竺徳兵衛韓噺」（上演年表）

西曆 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
昭和 58	(1) 4	明治座	新版天竺徳兵衛新噺 四幕 序幕 第一場 肥後国玉名菊地館の場・第二場 同城外松並木の場・第三場 吉岡宗観邸の場・第四場 裏手水門の場・二幕目 第一場 肥前唐津今川家本城門外の場・第二場 同奥殿の場・第三場 同城内潮見槽の場・三幕目 第一場 山城国蜷ヶ沼の場・第二場 同小幡の里小平次住居の場・大詰 第二場 近江国大津梅津館客殿の場・第二場 同奥庭の場	天竺徳兵衛・田舎座頭徳市・唐使宗蘇卿・傾城如月・禿弥生・小姓啓明・太鼓持季冬・又平女房おとく・雀の精重陽・枝折姫・面売り六呂・婆初霜・小平次・おとわ（市川猿之助） Ⅱ(2)猿翁、尾形十郎（9）澤村宗十郎、乳人滝乃・梅津掃部頭（7）市川門之助、今川左馬次郎・多九郎（4）市川段四郎、技折姫（中村芝雀Ⅱ(5)雀右衛門、吉岡宗観（3）實川延若、細川頼之（5）中村歌六、妹おまき（市川右近Ⅱ(3)右團次）、棒突きの足軽（6）片岡芦燕、小佐保天南（2）市川段猿、百姓正作（7）市川寿美感）。 ※奈河彰輔脚本並演出、市川猿之助Ⅱ(2)猿翁 演出。
昭和 61	(3) 1 ~ (28)	国立劇場	天竺 徳兵衛 韓噺 一幕二場 第一場 吉岡宗観邸の場・第二場 同裏手水門の場	天竺徳兵衛（1）尾上辰之助、梅津掃部（坂東彦三郎Ⅱ楽善）、山名時五郎（10）岩井半四郎、佐々木桂之助（坂東八十助Ⅱ(00)三津五郎）、銀杏の前（中村芝雀Ⅱ(5)雀右衛門）、若徒藏平（尾上松鶴Ⅱ(6)松助）、蛇使い段八（坂東弥五郎）、庄屋沖右衛門（尾上佳緑、吉岡宗観（3）河原崎権十郎）、宗観妻夕浪（2）中村又五郎）。 ※国立劇場第一三五回歌舞伎公演。利倉幸一補綴、(2)尾上松緑指導。

□	一九九〇 平成2	2 (2) ~ (25)	大阪 大阪新歌舞伎座	天竺徳兵衛新噺 三幕 発端 吉岡宗親呪咀の場・序幕 第一場 筑前国大友家老吉岡宗親郎の場・第二場 同裏手水門の場・第二幕 豊後国荒平沼の場・第一場 豊後国荒平沼の場・第二場 同小原の里小平次住家の場・三幕目 第一場 肥前国唐津今川家本城門外の場・第二場 同奥殿の場・第三場 同城内潮見櫓の場・大詰 玄海灘沖合船中の場
□	一九九〇 平成2	7 (1) ~ (26)	歌 舞 伎 座	天竺徳兵衛新噺 三幕 発端 筑前国大友家国主館宝蔵の場・序幕 第一場 筑前国大友家老吉岡宗親郎の場・第二場 同裏手水門の場・第二幕 第一場 豊後国荒平沼の場・同第二場 同小原の里小平次住家の場・三幕目 第一場 肥前国唐津今川家本城門外の場・第二場 同奥殿の場・第三場 同城内潮見櫓の場・大詰 玄海灘沖合船中の場
□				<p>④通し狂言</p> <p>天竺徳兵衛・小平次・おとわ・座頭徳市・唐使宗蘇卿(市川猿之助)②猿翁、吉岡宗親・馬士多九郎(4)市川段四郎、夕浪(5)坂東竹三郎、枝折姫(2)市川笑也、乳母袖垣(3)市川笑三郎、鷲塚鬼藤太(市川欣弥、庄屋沖右衛門(6)嵐冠十郎、和蘭万歳(4)市川猿十郎、今川左馬次郎(中村信二郎)②錦之助、尾形十郎(9)澤村宗十郎、小佐保天南・呂宋助兵衛(坂東彌十郎)、百姓正作(6)片岡吾燕、安南高平(市川小米)⑧門之助、暹羅長助(1)中村亀鶴、梅津筑後守(市川右近)③右團次)。</p> <p>※奈河彰輔脚本。</p>

「天竺徳兵衛韓噺」（上演年表）

西曆 年	(日)月	劇場	上演外題	配役・備考
一九九九 平成 11	10 (3) ~ (27)	国立劇場	音菊 天竺徳兵衛 三幕七場 序幕 京都北野天神境内の場・同別当所別間の場・同別当所広間の場・二幕目 京都吉岡宗観邸の場・同裏手水門の場・大詰 京都梅津掃部邸の場・同奥座敷庭先の場	⑧通し狂言 梅津掃部元春 (6)澤村田之助、山名時五郎氏連 (9)市川團蔵、石割源吾 (6)尾上松助、若徒磯平 (尾上辰之助) (4)松緑、梅津の妹銀杏の前 (5)尾上菊之助、蛇使い段八 (4)片岡亀蔵、佐々木桂之介・梅津奥方葛城 (5)中村時蔵、天竺徳兵衛実は木曾官一子大日丸・座頭徳市実は大日丸・斯波左衛門義照実は大日丸 (7)尾上菊五郎、庄屋沖右衛門 (4)尾上菊十郎、宗観妻夕浪 (2)中村又五郎、吉岡宗観 (17)市川羽左衛門、細川修理之助政元 (坂東彦三郎) (楽善)、奴鹿蔵 (坂東正之助) (4)河原崎権十郎。 ※国立劇場第二一五回歌舞伎公演。戸部銀作補綴。
二〇〇四 平成 16	11 (8) ~ (24)	大阪 大阪松竹座	天竺 徳兵衛 韓噺 二幕 序幕 第一場 京都吉岡宗観邸の場・第二場 同裏手水門の場・大詰 第一場 京都梅津掃部邸の場・第二場 同奥庭持仏堂の場	⑨通し狂言 天竺徳兵衛実は木曾官一子大日丸・座頭徳市実は大日丸・斯波左衛門義照実は大日丸 (市川染五郎) (10)松本幸四郎、吉岡宗観・細川修理之助政元 (坂東彌十郎)、宗観妻夕浪 (6)上村吉弥、庄屋沖右衛門・足軽松平 (松本幸太郎) (3)高麗五郎、蛇使い段八 (坂東竹志郎) (4)市川九團次、銀杏の前 (片岡千寿郎) (千寿)、山名時五郎氏連・奴鹿蔵 (6)嵐橋三郎、梅津掃部元春 (2)中村亀鶴、佐々木桂之介・梅津奥方葛城 (3)中村扇雀。 ※奈河彰輔演出。

「天竺徳兵衛韓晰」（上演年表）

西暦 年	（日）月	劇場	上演外題	配役・備考
二〇一八 平成 30	1 （3） ～ （26）	新橋演舞場	天竺 徳兵衛 韓晰 三幕 序幕 第一場 吉岡宗観邸奥座敷の場・第二場 同水門の場・二幕目 第一場 梅津掃部屋敷奥殿の場・第二場 同土蔵前の場・大詰 大清寺仙人閣の場	天竺 徳兵衛 実 は 木曾官一子大日丸・座頭徳市実 は 天竺 徳兵衛・桜町中納言義照実 は 天竺 徳兵衛 (2) 中村獅童、佐々木桂之介 (8) 大谷友右衛門、銀杏の前 (6) 中村児太郎、梅い段八 (4) 市川新十郎、庄屋沖右衛門 (澤村國矢)、山名時五郎氏連 (市川弘太郎)、梅津掃部元春 (4) 市川九團次、宗観妻夕浪 (6) 上村吉弥、吉岡宗観・細川修理之助政元 (3) 市川右團次、奴鹿蔵・奴鹿蔵実 は 清国廷臣王魏祝 (6) 中村松江、足軽松平 (2) 市川猿四郎、梅津奥方葛城実 は 蘇任娘斐蘭 (2) 市川笑也、將軍足利義政 (11) 市川海老蔵。 ※中村獅童宙乗り相助め申し候。今井豊茂補綴並演出。
二〇一九 令和 1	10 （2） ～ （26）	国立劇場	天竺 徳兵衛 韓晰 三幕六場 序幕 北野天満宮鳥居前の場・同別当所広間の場・二幕目 吉岡宗観邸の場・同裏手水門の場・大詰 梅津掃部館の場・同奥座敷庭先の場	梅津掃部元春 (3) 中村又五郎、山名時五郎氏連・奴鹿蔵 (4) 中村歌昇、下部磯平 (3) 大谷広太郎、梅津妹銀杏の前 (5) 中村米吉、佐々木桂之介 (4) 中村橋之助、次女袖垣 (4) 中村梅花、蛇使い段八 (中村橋吾、石割源吾、笹野才造) (6) 中村松江、天竺 徳兵衛 実 は 木曾官一子大日丸・座頭徳市・斯波左衛門義照実 は 大日丸 (8) 中村芝翫、庄屋沖右衛門 (1) 中村吉三郎、吉岡宗観・細川修理之助政元 (坂東彌十郎、宗観妻夕浪 (6) 中村東蔵)、梅津奥方葛城 (11) 市川高麗蔵。 ※国立劇場第三・四回歌舞伎公演。国立劇場文芸研究会補綴。